

都市再生整備計画 事後評価シート
湊酒田中心市街地地区(第2期)

令和2年4月

山形県酒田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県	市町村名	酒田市	地区名	湊酒田中心市街地地区(第2期)			面積	116.3ha
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	458.0百万円	国費率	40.60%		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	①【公園】日和山公園 ②【地域生活基盤施設】地区内各所(情報板) ③【高質空間形成施設】中町モール(中町通り線)						
		提案事業	④【地域創造支援事業】山居倉庫ライトアップ事業						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	⑤【地域生活基盤施設】地区内各所(歩道路面プレート) ⑥【地域生活基盤施設】山居倉庫周辺地区(広場) ⑦【高質空間形成施設】日和山周辺地区 ⑧【既存建造物活用事業】中町庁舎(地域交流センター)	⑤回遊性向上のための観光案内表示の在り方について庁内会議を開催した結果、降雪期における効果減少が考えられる歩道路面プレートの設置を取り止め、情報板の設置基数を増加した。 ⑥山居倉庫を史跡指定し、市が購入する方針としたことから、事業計画の見直しが生じたため、都市再生整備計画から削除した。 ⑦回遊性を促す検討は続けているが、事業計画の見直しが生じ、単独事業として検討するため、都市再生整備計画から削除した。 ⑧事業計画を変更し、社会資本整備総合交付金を活用せず、光丘文庫や県のジョブプラザ、酒田市雇用創造協議会、酒田市産業振興まちづくりセンター(通称サンロク)等の公共施設を再配置したため、都市再生整備計画から削除した。	⑤案内表示の在り方の変更であるため目標等に影響は生じない。 ⑥事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。 ⑦事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。 ⑧当初の事業計画からは変更したが、市民が集う施設整備を行っており、目標等に影響は生じない。				
		提案事業	⑨【地域創造支援事業】酒田駅観光まちあるき ⑩【地域創造支援事業】旧割烹小幡改修 ⑪【事業活用調査】事業効果調査 ⑫【まちづくり活動推進事業】中心市街地循環バス運行	⑨酒田駅前地区の再開発事業遅延に伴い着手が遅れにより、単独事業として検討するため、都市再生整備計画から削除した。 ⑩民間事業者による収益施設を前提とした整備を行うため、都市再生整備計画から削除した。 ⑪市費のみで実施するため都市再生整備計画から削除した。 ⑫社会実験として運行したものの、全運行経路の2割以上を区域外が占めるため、都市再生整備計画から削除した。	⑨事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。 ⑩施設整備の方向性を変更するもので、目標等に影響は生じない。 ⑪事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。 ⑫循環バス事業として市の単独事業で実施済みのため目標に影響は生じない。				
		新たに追加した事業	基幹事業	-	-	-			
	提案事業	⑬【地域創造支援事業】中町モール大屋根整備	⑬高質空間形成施設「中町モール改修事業」と連動し、中町モールに大屋根を設置することによって、天候に左右されないイベント利便性を向上させるとともに、モールに面して別途行われた中町にぎわい健康プラザ整備事業、フードコート整備事業とを繋ぎ中心商店街の魅力向上、来街機会を増進させるため追加した。	⑬基準値よりも悪化している現状から、当初目標を達成するための変更であるため目標等に影響は生じない。					
	交付期間の変更	当初	平成27年度～令和元年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-				
	変更	-							

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	指標2	指標3	指標4	指標5	指標1	指標2	指標3	指標4	指標5			
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	2,718	H26	2,779	R1		2,067	×	あり	●	中町モール改修、大屋根整備の他、中町にぎわい健康プラザの整備等を行ったものの、中町二丁目地区及び酒田駅前地区の両再開発事業の事業進捗に遅れが生じたことから、効果発現に至らなかった。	令和2年4月
	商店街空き店舗数	件/年	99	H26	83	R1		98	△	あり	●	酒田市産業振興まちづくりセンター(通称サンロク)を整備し、創業支援等に取組んでいるが、不動産オーナー側の「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」等、貸す意思のない空き店舗があることから、効果発現には至らなかった。	令和2年8月
	観光施設入込数	人/年	1,571,285	H25	1,648,000	R1		1,464,453	×	あり	●	市全体の観光入込数が年々減少傾向にあることに加え、測定施設の一つでもある旧割烹小幡改修事業の見直しや、山居倉庫周辺の整備方針見直しに時間を要していることから、効果発現には至らなかった。	令和2年6月
	公共・公益施設利用者数	人/日	363	H25	953	R1		695	△	あり	●	中町にぎわい健康プラザの整備、中町庁舎への公共機能再配置、さらには市役所新庁舎1階に、障がい者就労支援カフェ「え〜る」をオープンする等、幅広い年齢層に來街してもらう整備を行ってきたが、測定施設の一つであるさかた街なかキャンパスが平成31年3月で閉館したこと、交流広場の利用者数が減少傾向にあること、市庁舎及び中町庁舎の利用者数が想定を下回っていることから、効果発現に至らなかった。	令和2年9月
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	あり	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4) 定性的な効果発現状況	令和元年度からは、民間主体の新たなイベントが中町モール周辺で実施される等、中心市街地への来街機会増加の機運が生まれつつある。												
5) 実施過程の評価	モニタリング	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
		毎年度担当課において、目標指標のモニタリングを実施し、中心市街地活性化基本計画フォローアップ報告書として取りまとめ、公表した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 今後も、目標指標の達成状況を毎年度確認していく。			
	住民参加プロセス	平成28年度に、山居倉庫周辺整備事業や、日和山周辺地域の景観づくり、旧割烹小幡に関する市民アンケート、ワークショップを実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 市として、山居倉庫周辺の整備方針を決定する。 今後も、日和山周辺地区の景観形成施策に取組むとともに、旧割烹小幡改修事業等との相乗効果を図っていく。			
持続的なまちづくり体制の構築	酒田市中心市街地活性化協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 今後も協議会と連携し、中心市街地の活性化に資する事業を推進していく。 整備したハードを持続的に活用する人材、組織づくりについて検討する。				

様式2-2 地区の概要

湊酒田中心市街地地区(第2期)(山形県酒田市)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	数値	水準	数値	水準	数値	水準
大目標: 湊まちルネッサンス(再興)-湊のにぎわいと交流のあるまちづくり- 目標1: にぎわいあふれる商業のまち 目標2: 訪ねて楽しい観光のまち 目標3: 市民が集う交流のまち	歩行者・自転車通行量	単位: 人/日	2,718	H26	2,779	R1	2,067	R1
	商店街空き店舗数	単位: 件/年	99	H26	83	R1	98	H30
	観光施設入込数	単位: 人/年	1,571,285	H25	1,648,000	R1	1,464,453	H30
	公共・公益施設利用者数	単位: 人/日	363	H25	953	R1	695	R1
	-	-	-	-	-	-	-	-

■日と山公園環境整備事業



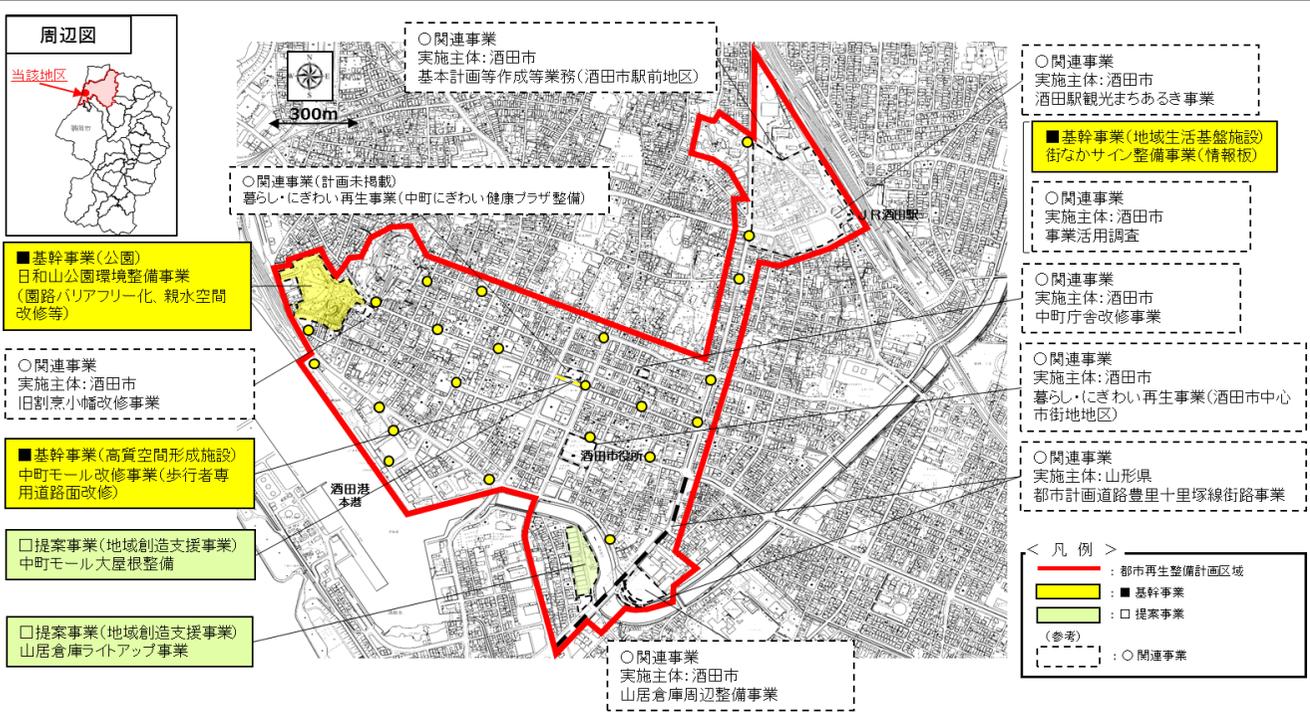
■中町モール改修事業

□中町モール大屋根整備



○中町にぎわい健康プラザ整備事業

(フリースペース、健康増進スペース、立体駐車場)



■街なかサイン整備事業



□山居倉庫ライトアップ事業



まちの課題の変化

- ・急激な人口減少、少子高齢化が進んでおり、市街地全域でも人口減少が見込まれる中、将来的に基本的な生活サービスが維持困難になることが懸念される。
- ・市街地、特に中心市街地では空き家・空き地が増加傾向にあり、公・民の低未利用地が今後更に増加することが予想される。
- ・中心市街地は空洞化が進み、まちの強みを生かした滞在・回遊・活力を生み出せていない。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・整備された施設等の効果、魅力を持続させるため、ハードとソフトによる一体的な利活用を検討、実施する。
- ・酒田駅前においては、誘導施設である(仮称)酒田市立ライブラリーセンターを核とする(仮称)酒田市コミュニケーションポートと、ホテル・パンケット・店舗・分譲マンション等からなる複合施設を整備する。
- ・都市機能の再生・更新を図ることで、中心市街地の価値を高めて投資を呼び込み、魅力と賑わいを創出、住みやすい、住み続けられる都市づくりの実現を目指す。
- ・駅前を観光の起点とするとともに、市民の憩いの場としての機能を向上させ、これまで進めてきた中町エリア、港エリア、日と山・台町エリアや山居倉庫周辺エリアとの連携強化を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

~~添付様式9~~ 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	日和山公園	125	約3,300㎡	145	約3,300㎡	設置予定の庭門の設計に変更が生じ、製作費が高騰したことから、事業費を増額した。	事業内容の変更ではないため、目標等への影響は生じない。	●	
地域生活基盤施設	地区内各所(情報板、歩道路面プレート)	23	10基ほか	33	33基	回遊性向上のための観光案内表示の在り方について庁内会議を開催した結果、降雪期における効果減少が考えられる歩道路面プレートの設置を取り止め、情報板の設置基数を増加した。	案内表示の在り方の変更であるため目標等に影響は生じない。	●	
地域生活基盤施設	山居倉庫周辺地区(広場)	150	約8,000㎡	-	-	山居倉庫を史跡指定し、市が購入する方針としたことから、事業計画の見直しが生じたため、都市再生整備計画から削除した。	事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。		
高質空間形成施設	中町モール(中町通り線)	54	100m	120	100m	中町モールに隣接する空き店舗跡地等を活用した民間事業が複数実施されており、これらの事業を都市機能として面的に繋ぎ、求心力や滞留性の向上によって目標を達成するための機能として、こども水遊び施設等を導入した。	基準値から悪化している状況を改善するための計画変更であり、目標等への影響は生じない。	●	
高質空間形成施設	日和山周辺地区	77	444m	-	-	回遊性を促す検討は続けているが、事業計画の見直しが生じたため、都市再生整備計画から削除した。	事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。		
既存建造物活用事業	中町庁舎(地域交流センター)	40	約1,600㎡	-	-	事業計画を変更し、社会資本整備総合交付金を活用せず、光丘文庫や県のジョブプラザ、酒田市雇用創造協議会、酒田市産業振興まちづくりセンター(通称サンロク)等の公共施設を再配置したため、都市再生整備計画から削除した。	当初の事業計画からは変更したが、市民が集う施設整備を行ったため、目標等に影響は生じない。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	山居倉庫ライトアップ事業	10	24基ほか	10	24基ほか	-	-	●	
	中町モール大屋根整備	-	-	150	1基	高質空間形成施設「中町モール改修事業」と連動し、中町モールに大屋根を設置することによって、天候に左右されないイベント利便性を向上させるとともに、モールに面して別途行われた中町にぎわい健康プラザ整備事業、フードコート整備事業とを繋ぎ、中心商店街の魅力向上、来街機会を増進させるため追加した。	基準値よりも悪化している状況を改善するための計画変更であり、目標等への影響は生じない。	●	
	酒田駅前観光まちあるき	3	一式	-	-	酒田駅前地区の再開発事業遅延に伴い着手が遅れたため、都市再生整備計画から削除した。	事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。		
	旧割烹小幡改修	76	約1,550㎡	-	-	民間事業者による収益施設を前提とした整備を行うため、都市再生整備計画から削除した。	施設整備の方向性を変更するもので、目標等に影響は生じない。		
事業活用調査	事業効果調査	3	一式	-	-	市費のみで実施するため、都市再生整備計画から削除した。	事業を中止するものではないため、目標等への影響は生じない。		
まちづくり 活動推進事業	中心市街地循環バス運行	18	一式	-	-	社会実験として運行したものの、全運行経路の2割以上を区域外が占めるため、都市再生整備計画から削除した。	循環バス事業として市の単独事業で実施済みのため目標に影響は生じない。		

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
暮らし・にぎわい再生事業(酒田市中心市街地地区)		中心市街地地区	-	-	平成25年度～平成29年度	平成25年度～平成29年度	平成29年度完成。 市庁舎に併設したにぎわい交流サロンとして、来街者の待ち合わせ場所や、観光・イベント情報の発信スペースとして活用されている。	支援制度:社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業) 実施主体:酒田市
基本計画等作成業務(酒田市駅前地区)		駅前地区	-	-	平成26年度～平成27年度	平成26年度～平成27年度	平成28年度完了。	支援制度:社会資本整備総合交付金(基本設計等作成等事業) 実施主体:酒田市
都市計画道路豊里十里塚線街路事業		本町一丁目地内他	-	-	平成25年度～平成29年度	平成25年度～平成29年度	令和2年度まで事業期間延長。	支援制度:防災・安全交付金(道路事業(街路)) 実施主体:山形県
山居倉庫周辺整備事業		山居倉庫周辺エリア	-	-	-	平成30年度～平成33年度	山居倉庫周辺エリアの価値向上を図ることを目的に、エリアにおけるにぎわいの創出、利便性が向上する機能の整備に向けて基本計画の策定及び事業者募集を行う。	実施主体:酒田市
酒田駅観光まちあるき事業		駅前地区	-	-	-	平成30年度～平成33年度	酒田駅前地区の再開発事業の進捗と合わせて実施を検討。	実施主体:酒田市
中町庁舎改修事業		中町地区	-	-	-	平成30年度	平成28年度光丘文庫入居。 平成29年度ジョブプラザ入居。 平成30年度酒田市産業振興まちづくりセンター入居。	実施主体:酒田市
旧割烹小幡改修事業		日和山地区	-	-	-	平成30年度～平成32年度	令和元年度、飲食事業実施者決定。 令和2年度、工事完成予定。	支援制度:地方創生推進交付金 実施主体:酒田市
事業活用調査		-	-	-	-	平成31年度	最終年度実施。	実施主体:酒田市

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
				基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	数値	事後評価	あり	なし			
指標1	歩行者・自転車通行量 (平日)	人/日	時期:毎年4月下旬の平日 場所及び手法:中町モール、駅 前商店街、大通り商店街の3か 所の合計値	2,572	H17	2,718	H26	2,779	R1	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	2,067	事後評価	×		
指標2	商店街空き店舗数	件/年	時期:毎年8月 場所及び手法:中心市街地内の 主要商店街等5か所の合計値	95	H23	99	H26	83	R1	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	98	事後評価	△		
指標3	観光施設入込数	人/年	時期:毎年度の翌年度6月 対象施設及び手法:中心市街地 内の主要観光施設15か所の実 績値	1,593,240	H19	1,571,285	H25	1,648,000	R1	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	1,464,453	事後評価	×		
指標4	公共・公益施設利用者数	人/日	時期:毎年9月上旬の平日 対象施設及び手法:中心市街地 内の主要交流施設5か所	374	H23	363	H25	953	R1	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	695	事後評価	△		
指標5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング			モニタリング			-
										事後評価	確定 見込み ●	-	事後評価	-		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	最新値は、基準値と比較して24.0%(651人)悪化した。特に、歩行者・自転車通行量調査で半数近くを占める中町モール地点において、「中町モール改修事業」、「中町モール大屋根整備」が完了したものの、中町二丁目地区第一種市街地再開発事業や、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業について、事業費高騰等により設計等の見直し、進捗に遅れが生じており、通行量の改善に繋がっていないことから目標達成度を×とした。	中町モールについては、平成30年4月の供用開始以降、新規イベントの開催等によりイベント会場としての認知度向上や、夏期間は平日でも噴水で遊ぶ家族連れで賑わう等、恒常的な賑わいが生まれつつある。一方で、歩行者・自転車通行量調査の評価は4月第4火曜日1日の測定結果に左右されるため、測定結果の数値だけでは活性化の評価が困難である。
指標2	最新値は、基準値と比較して1件改善した。中町モール改修・大屋根整備に加え、中町にぎわい健康プラザ整備(市)とフードコート整備(民間)を繋ぐことで、来街機会の増加・中心市街地への投資意欲向上に一定程度寄与した。また、平成29年度に設立した酒田市産業振興まちづくりセンター(通称サンロク)において、開業支援補助金等による創業支援を実施していることから、目標達成度を△とした。	不動産オーナー側の「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」等の理由により、貸す意思のない空き店舗が約30店舗ある状況が主な課題となっており、空き店舗所有者のニーズに沿った対策を検討することや、商業だけでなく住居誘導施策への転換を検討する。
指標3	最新値は、基準値と比較して6.8%(106,832人)悪化した。大型クルーズ船の寄港回数増加や、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の日本遺産認定を受けたものの、基準値を上回った施設は一部に留まっている。市全体の観光客が減少していることに加え、測定施設の一つでもある旧割烹小幡改修事業の見直しや、山居倉庫周辺の整備方針見直しに時間を要していることから、目標達成度を×とした。	測定施設の一つである旧割烹小幡については、食の魅力を発信する施設としての活用に向け、令和元年7月に飲食事業者が決定。令和3年4月のプレオープン、同年11月のグランドオープンを予定しており、旧割烹小幡改修による事業効果を見込んでいる。山居倉庫周辺整備事業については、令和2年度夏頃に市の整備方針を決定し、年度末にかけて事業者募集と選定を行う。
指標4	最新値は、基準値と比較して91.5%(332人)増加した。中町にぎわい健康プラザのオープン、中町庁舎における光丘文庫の機能移転、酒田市産業振興まちづくりセンターの移転、ジョブプラザ開設のほか、市役所新庁舎1階においても、障がい者就労支援カフェ「え～る」がオープンする等、幅広い年齢層に来街してもらうきっかけとなっている。一方、測定施設の一つであるさかた街なかキャンパスが平成31年3月で閉館したことの影響も踏まえ、目標達成度を△とした。	測定施設の一つであるさかた街なかキャンパスが閉館したことによる純減(△37人)や、交流ひろばの利用者数が減少傾向にあること、市庁舎及び中町庁舎の利用者数が当初の見込みを下回っていることが課題となっている。一方で、中町にぎわい健康プラザの利用実績は着実に伸びていることから、引き続き市民交流、街なか回遊のための集いのスペース活用や、隣接する中町モールと一体的に活用できるメリットを周知することで利用者増を図る。
指標5	-	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価				
その他の 数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定	-		
その他の 数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定	-		
その他の 数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング	-	-	-	-
									事後評価	確定	-		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

令和元年度からは、民間主体の新たなイベントが中町モール周辺で実施される等、中心市街地への来街機会増加のきっかけづくりが生まれつつある。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
毎年度担当課において、目標指標のモニタリングを実施し、中心市街地活性化基本計画フォローアップ報告書として取りまとめ、公表した。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】各目標指標の測定時期 【実施結果】採用した目標指標は、担当課により概ね毎年度事の数値が整理されているため、モニタリングを容易に実施することができた。</p>	<p>今後も、目標指標の達成状況を毎年度確認していく。</p>

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
山居倉庫周辺整備事業に関するものとして、具体的な整備内容策定のための市民アンケートを実施	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】1回 【実施時期】平成28年度 【実施結果】未利用地活用の方向性や導入機能等に関する市民意見を把握し、検討の基礎資料とした。</p>	<p>市として、山居倉庫周辺の整備方針を決定する。</p>
日和山地区の景観形成に関する市民ワークショップ、市民アンケートを実施	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】1回 【実施時期】平成28年度 【実施結果】アンケートやワークショップの結果を踏まえ、平成29年10月に景観形成重点地域に指定した。</p>	<p>今後も、日和山周辺地区の景観形成施策に取り組むとともに、旧割烹小幡改修事業等との相乗効果を図っていく。</p>

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
酒田市中心市街地活性化協議会	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった(理由)</p>	<p>●</p> <p>酒田市中心市街地活性化基本計画と連携し、事業の推進や協議を行い、中心市街地の活性化に取り組んでいる。</p>	<p>酒田市中心市街地活性化協議会</p>	<p>今後も協議会と連携し、中心市街地の活性化に資する事業を推進していく。整備したハードを持続的に活用する人材、組織づくりについて検討する。</p>

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内ワーキンググループ	財政課、企画調整課、商工港湾課、地域共生課、まちづくり推進課、健康課、土木課、建築課、総務課、交流観光課、農政課、社会教育文化課	適宜	都市デザイン課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		-		-		-		-	
指標名		-		-		-		-	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
提案事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	-	-	-	-
-------	---	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4			
指標名		歩行者・自転車通行量(平日)			商店街空き店舗数			観光施設入込数			公共・公益施設利用者数			
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	【公園】日和山公園	△	中町モール改修、大屋根整備の他、中町にぎわい健康プラザの整備等を行ったものの、中町二丁目地区及び酒田駅前地区の両再開発事業の事業進捗に遅れが生じたことから、効果発現に至らなかった。	Ⅲ	△	酒田市産業振興まちづくりセンター(通称サンロク)を整備し、創業支援等に取組んでいるが、不動産オーナー側の「住居併用のため」、「貸すための修繕に費用がかかる」等、貸す意思のない空き店舗があることから、効果発現には至らなかった。	Ⅱ	△	市全体の観光入込数が年々減少傾向にあることに加え、測定施設の一つでもある旧割烹小幡改修事業の見直しや、山居倉庫周辺の整備方針見直しに時間を要していることから、効果発現には至らなかった。	Ⅲ	△	中町にぎわい健康プラザの整備、中町庁舎への公共機能再配置、さらには市役所新庁舎1階に、障がい者就業支援カフェ「え〜る」をオープンする等、幅広い年齢層に来街してもらった整備を行ってきたが、測定施設の一つであるさかた街なかキャンパスが平成31年3月で閉館したこと、交流広場の利用者数が減少傾向にあること、市庁舎及び中町庁舎の利用者数が想定を下回っていることから、効果発現に至らなかった。	Ⅲ	
	【地域生活基盤施設】地区内各所(情報板、歩道路面プレート)	△			△			△						
	【高質空間形成施設】中町モール(中町通り線)	△			△			△						
提案事業	【地域創造支援事業】山居倉庫ライトアップ事業	△			△			△			△			△
	【地域創造支援事業】中町モール大屋根整備	△			△			△			△			△
関連事業	暮らし・にぎわい再生事業(酒田市中心市街地地区)	△			△			△			△			△
	基本計画等作成業務(酒田市駅前地区)	-			-			-			-			-
	都市計画道路豊里十里塚線街路事業	×	×	×	×	×								
	山居倉庫周辺整備事業	×	×	×	×	×								
	酒田駅観光まちあるき事業	×	×	×	×	×								
	中町庁舎改修事業	△	△	△	△	△								
	旧割烹小幡改修事業	×	×	×	×	×								
事業活用調査	-	-	-	-	-	-								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能なる要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能なる要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能なる要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能なる要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>中町二丁目地区再開発については、多目的ホール、情報センター等を含む新産業会館が令和3年夏のオープンを予定している。酒田駅前地区再開発については、令和2年11月に(仮称)酒田市コミュニケーションポートが一部先行オープンし、令和4年4月のグランドオープンを見込んでいる。また、酒田駅前再開発の進捗に合わせて、情報案内板を拡充するとともに、ライブラリーセンター内で本市の観光・イベント・地場産品の情報を発信することで、駅周辺エリアからまちなかへの回遊を促進する。</p>	<p>酒田市産業振興まちづくりセンターによる創業支援等に取り組むとともに、中町二丁目地区及び酒田駅前地区における市街地再開発事業の着実な推進により、中心市街地への集客、新規出店意欲・投資誘引を図り、空き店舗数の減少を目指す。合わせて、空き店舗所有者のニーズに沿った対策や、商業だけでなく居住誘導施策への転換も検討する。</p>	<p>旧割烹小幡改修事業については、令和3年4月のプレオープン、同年11月のグランドオープン予定している。明治時代に建てられた料亭跡を、酒田の歴史や食(洋食)の魅力を伝える施設として整備することで、効果発現を見込む。また、令和元年10月から12月まで開催される新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーンを追い風に、キャンペーン終了後の持続した効果発現を目指す。</p>	<p>中町にぎわい健康プラザについては、平成29年度の53,350人から平成30年度は62,221人と利用実績が着実に伸びていることから、他施設の減少分を補うとともに、引続き市民交流、街なか回遊のための集いのスペース活用や、一階の扉をオープンにする等、隣接する中町モールと一体的に活用できるメリットを周知することで利用者増を図る。</p>
--------------------------	---	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
酒田市中心市街地活性化協議会	酒田商工会議所、酒田まちづくり開発㈱、酒田駅前商店街振興組合、中町中和会商店街振興組合、中通り商店街振興組合、大通り商店街振興組合、東日本旅客鉄道㈱酒田駅、庄内交通㈱、(一社)酒田地区医師会十全堂、酒田市自治会連合会、酒田市企画部、酒田市地域創生部、酒田市建設部、(一社)酒田観光物産協会、NPO法人にこっと、NPO法人元気王国、(公社)酒田青年会議所、酒田商工会議所産業振興委員会、(一社)山形県建設業協会酒田支部、山形県宅地建物取引業協会酒田、酒田金融協会、東北公益文科大学	年1回以上	都市デザイン課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
人口減少・少子高齢化も進む 中での、賑わいの創出が不足	中町モール改修や大屋根を整備することで、来街機会の増加や利便性の向上、イベント時のメイン会場としての認知度が向上する等、賑わい創出が図られた。	酒田駅前及び中町二丁目地区における市街地あ再開発事業が事業継続中であること、中町モールに隣接する中町にぎわい健康プラザの利用者増に対して、歩行者通行量等が伸び悩んでいること等から、事業を着実に推進するとともに、施設利用者を回遊させるための周辺施設との一体的な活用に向けた組織づくりや、利用にあたっての利便性向上が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な人口減少、少子高齢化が進んでおり、市街地全域でも人口減少が見込まれる中、将来的に基本的な生活サービスが維持困難になることが懸念される。 ・市街地、特に中心市街地では空き家・空き地が増加傾向にあり、公・民の低未利用地が今後更に増加することが予想される。 ・中心市街地は空洞化が進み、まちの強みを生かした滞在・回遊・活力を生み出せていない。
中心市街地地区内の観光施設・拠点施設間の回遊性が不十分	旧割烹小幡に隣接する日和山公園環境整備事業により、観光客や市民が滞在する環境が整備された。また、中心市街地地区内の主要観光施設を回遊させるための情報案内板が整備されたことで、拠点間を結ぶ環境が整備された。	旧割烹小幡改修事業の遅延により、日和山周辺を目的とする観光客が当初の見込みを下回っている。また、駅周辺への設置が酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の進捗に合わせて未実施であることが課題として残っている。	
中心市街地地区内での人口減少	民間によるサービス付高齢者住宅が整備されるとともに、中町にぎわい健康プラザが整備される等、都市機能の集約が図られた。	将来的に市街地全域で人口が減少することが見込まれている中で、特に中心市街地では著しい減少が予想されており、空き家や空き地が多く発生していることから、都市機能の集約、具体的な居住誘導施策が必要である。	
駅周辺地区、山居倉庫周辺地区の魅力を高めるための施策が不十分	山居倉庫ライトアップ事業等、観光施設の魅力を高める事業が実施され、従来の観光スポットに新たな付加価値が生まれた。	山居倉庫周辺整備事業については、山居倉庫への観光入込数に対して、消費額が低迷する等の課題がある。酒田駅周辺については、酒田駅前地区第一種市街地再開発事業で整備される観光案内機能が未整備であることから、駅を利用する観光客への情報発信が不足している。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	ハードを活用したソフト事業の推進	整備された施設等の効果、魅力を持続させるため、一体的な活用を検討、実施する。	商店街イベント助成事業 産業振興まちづくり推進事業
	-	-	-
	-	-	-

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	中心市街地の都市機能の再生・更新 中心市街地に対する投資意欲	・(仮称)酒田市立ライブラリーセンターを核とする「(仮称)酒田市コミュニケーションポート」と、ホテル・バンケット・店舗・分譲マンション等からなる複合施設を整備する。	酒田駅前地区第一種市街地再開発事業 酒田コミュニケーションポート(仮称)整備事業
	中心市街地の人口減少及び、空き家・空き地の増加	・都市機能の再生・更新を図ることで、中心市街地の価値を高めて投資を呼び込み、魅力と賑わいを創出、住みやすい、住み続けられる都市づくりの実現を目指す。	酒田駅前地区第一種市街地再開発事業 酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業 山居倉庫周辺整備事業
	中心市街地の回遊性	・駅前を観光の起点とするとともに、市民の憩いの場としての機能を向上させ、これまで進めてきた中町エリア、港エリア、日和山・台町エリアや山居倉庫周辺エリアとの連携強化を図る。	旧割烹小幡改修事業 山居倉庫周辺整備事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

<p>酒田市中心市街地活性化協議会より以下のとおり意見が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画に基づいてまちづくりを進めていくことは賛成。 ・立地適正化計画に基づくまちづくりもこれまでと趣旨を異にするものではなく、関係者や市民の意見を聞いていく必要はある。 ・これからは、「施設」ではなく、「人」がキーコンテンツになると考える。魅力的な施設が人を呼ぶことを否定する訳ではないが、人が人を呼び込むことになる。酒田で言えば雪国(井山氏)。 ・駅前等の再開発についても、建物が完成して終わりではなく、どのようなプレイヤーが集まるか、再開発エリア周辺がどのような街になるか見えてくると良い。 ・第8回「住みたい田舎ベストランキング」で、酒田市が「シニア世代が住みたい田舎」部門で全国1位、総合部門でも同4位と、高評価を得ており、SNS等で積極的に発信してほしい。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度				あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	2,718	H26	2,779	R1	確定 ●	2,067	×	あり	●	→	令和2年4月	歩行者、自転車通行量調査を実施し、達成状況を確認する。	-
							見込み			なし					
指標2	商店街空き店舗数	件/年	99	H26	83	R1	確定 ●	98	△	あり	●	→	令和2年8月	商工港湾課が把握している令和2年8月における中心市街地内の空き店舗数を集計し、確定値とする。	-
							見込み ●			なし ●					
指標3	観光施設入込数	人/年	1,571,285	H25	1,648,000	R1	確定 ●	1,464,453	×	あり	●	→	令和2年6月	交流観光課が把握している令和元年度における中心市街地内の主要観光施設15施設の入込数を集計し、確定値とする。	-
							見込み ●			なし ●					
指標4	公共・公益施設利用者数	人/日	363	H25	953	R1	確定 ●	695	△	あり	●	→	令和2年9月	公共・公益施設利用者数調査を実施し、達成状況を確認する。	-
							見込み			なし ●					
指標5	-	-	-	-	-	-	確定	-	-	あり	-	→	-	-	-
							見込み			なし					
その他の数値指標1	-	-	-	-	/	/	確定	-	/	/	/	→	-	-	-
							見込み								
その他の数値指標2	-	-	-	-	/	/	確定	-	/	/	/	→	-	-	-
							見込み								
その他の数値指標3	-	-	-	-	/	/	確定	-	/	/	/	→	-	-	-
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	-	人口減少を前提とした、より現実的な目標指標を設定し、目標達成に資する確度の高い事業構成とする。
	うまくいかなかった点	目標指標に影響する事業が計画期間内に完了せず、確度の高い事業を構築する必要がある。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	事業を実施することで、新規イベント等の実施や、従来と異なる世代の利用者が生まれた。	確度の高い事業構成とし、合わせて関連事業の実施による事業の相乗効果を図る。
	うまくいかなかった点	事業の見直し等により、事業期間が計画期間を超える等、効果発現に至らなかった事業がある。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	-	中心市街地活性化協議会や、民間事業者との意見交換の機会を増やすとともに、計画の進捗、実施状況をわかりやすく発信する。
	うまくいかなかった点	積極的に意見聴取する工夫、取り組みが不十分であった。	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	毎年度実施している目標指標の測定と進捗管理により、必要に応じた事業追加や事業内容の見直しが行われた。	毎年度実施している目標指標の測定・管理を継続し、必要に応じて事業追加・見直し等を行うとともに、来街者満足度等、多角的な指標による評価も検討する。
	うまくいかなかった点	事業の見直し等により計画期間内に完了しなかった事業があった。事業完了に向けた管理を引き続き行う。	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業交付金の活用予定
 未解決の課題や新たに発生した課題を解決するため、新計画を策定し事業を実施することで、中心市街地の都市機能の再生・更新を図り、魅力と賑わいを創出するまちづくりを目指す。(都市構造再編集集中支援事業を活用予定)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年1月22日～2月4日	公表期間と同様	担当課へのFAX、電子メール等	都市デザイン課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市担当課窓口での閲覧	令和2年1月22日～2月4日	公表期間と同様		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	・高谷 時彦（東北公益文科大学大学院特任教授）	令和2年3月16日	酒田市企画部都市デザイン課	都市再生整備計画事後評価委員会設置起案書	独自に設置
その他の委員	・西村 修（酒田まちづくり開発㈱代表取締役） ・澁谷 齊（酒田商工会議所専務理事） ・阿部 勉（酒田市役所企画部長）				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	—
成果の評価	・歩行者・自転車通行量については、活性化の指標として実態が反映されているか疑問との意見があった。また、来街者の満足度等の指標、満足度を高めるための取り組みも活性化に繋がるとの意見があった。 ・空き店舗数については、所有者に貸す意思がないことが判明しており、所有者のニーズに沿った対策を検討することや、商業に固執せず、居住誘導に転換する時期に来ているとの意見があった。
実施過程の評価	・持続的なまちづくりを行っていく上で、ハードを整備して終わりではなく、ハードを持続的に活用する人材、組織づくりを考える必要があるとの意見があった。
効果発現要因の整理	・都市再生整備計画の指標は中心市街地活性化基本計画の指標と整合を取っているため、計画掲載事業だけで効果発現を分析することが難しいとの意見があった。
事後評価原案の公表の妥当性	・積極的に意見聴取する工夫、取り組みをすべきとの意見があった。 ・第三期計画では、計画の進捗、実施状況をわかりやすく発信すべきとの意見があった。
その他	・中心市街地活性化基本計画と関連のある都市再生整備計画であれば、中心市街地活性化協議会からの意見を反映させても問題ないのではとの意見があった。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくり方策の作成	・商業から居住誘導施策へ転換すべきとの意見を受け、具体的な居住誘導施策の必要性が確認された。 ・新規計画では、長年の課題であった酒田駅前地区における事業を重点的に取り組んでいくことが確認された。
今後のまちづくりについて審議	
フォローアップ	・従来の目標指標の設定方法に拘らず、来街満足度の把握についても検討するよう意見があった。
その他	・日和山公園を含めた周辺エリアの目指すべき姿、構想の検討について意見があった。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・山居倉庫周辺整備事業等についても、今後活用できる支援制度を活用していくことを確認した。

都市再生整備計画（第3回変更）

みなとさかたちゅうしんしがいちちくだい
湊酒田中心市街地地区（第2期）

やまがた 山形県 さかたし 酒田市

平成30年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	酒田市	地区名	湊酒田中心市街地地区(第2期)	面積	116.3 ha
計画期間	平成 27 年度	～	平成 31 年度	交付期間	平成 27 年度	～	平成 31 年度

目標

- 大目標: 湊まちルネッサンス(再興) ー 湊のにぎわいと交流のあるまちづくりー
- 目標1: にぎわいあふれる商業のまち
 - 目標2: 訪ねて楽しい観光のまち
 - 目標3: 市民が集う交流のまち

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本市の中心市街地は、長い歴史の中でまちづくりが行われてきた地域であり、そこには事業所や商店街、公共サービス機関、医療機関、福祉施設、教育文化施設などの都市機能や歴史的な資源が集積しており、本市の「顔」となっている。高度経済成長以降、急激な車社会の進展や土地区画整理事業による市街地の拡大、商業集積の多極化により商店街の低迷が続いており、中心市街地地区の人口減少、世帯数減少、高齢化が進展してきている。
- ・当地区には、「旧鍛屋」「本間家旧本邸」「山居倉庫」「本間美術館」など、今なお往時をしのばせる建造物が数多く存在し、豪商によって築かれた歴史や文化が色濃く残り、浪漫あふれる湊町の風情を醸し出している。また、近年においては、「相馬樓」「さかた海鮮市場」「酒田夢の倶楽部」「山王くらぶ」「みなと市場」など、新たな観光施設がオープンし、多くの観光客で賑わっている。
- ・公共交通に関しては、羽越本線・陸羽西線のターミナルであるJR酒田駅があり、近接のバスターミナルからは、中心市街地を経由する乗合バスのほか都市間を結ぶバスが発着し、本市の玄関口となっている。しかし、平成9年のジャスコ酒田駅前店の撤退以来、民間開発事業計画が立ち上がるものの、社会情勢の変化等もあり実施に至らず、整備が滞っており駅前商店街等は賑わいが衰退している。
- ・JR及び民間バス路線を補完するとともに、民間バス路線の縮減等に起因する公共交通の空白区域の解消と交通弱者の交通確保を目的として市が福祉乗合バス・タクシーを運行しており、中心市街地等へアクセスする公共交通の強化を図っている。
- ・山居倉庫周辺地区においては、高校統廃合に伴う跡地が生じ、将来への魅力ある都市づくりとして、その利活用が重要となっている。
- ・新庁舎整備により拡散している庁舎機能の集約・強化を図るとともに、集約により生じる公的不動産の有効活用を進めていく必要がある。
- ・民間資本が主体となった「酒田まちづくり開発会社」「酒田みなとまちづくり市民会議」や地元の「東北公益文科大学」との連携事業の展開など、市民参加・産官学連携によるまちづくりが図られている。

- ・平成14年3月に「酒田市都市計画マスタープラン」を策定した。
- ・平成20年1月に「酒田市総合計画(2008～2017)」を策定した。
- ・平成21年3月に「酒田市中心市街地活性化基本計画(H21.3-H27.3)」が認定された。 ※引き続きH27.4からの新計画認定に向けて申請中
- ・平成22年3月に「都市再生整備計画(湊酒田中心市街地地区)」を策定した。この計画において、中心市街地の賑わい創出を図るため、公園環境整備や修景道路整備や空き店舗対策等を行っている。第2期計画では、第1期計画の効果を一過性のものに終わらせず、更に相乗効果を図りながら、また新たな課題解決のための事業も盛り込み整備を進めて行く。

課題

- ①長引く地域経済の低迷、東日本大震災の影響等により、中心商店街の活性化はまだ不十分であり、人口減少・少子高齢化も進む中、賑わいの創出が課題である。
- ②中心市街地地区内の観光施設・拠点施設間の回遊性が不十分であり、それを向上させる施策が課題である。
- ③中心市街地地区内での人口と世帯数の減少が進み地域活力が減退しているが、将来にわたって持続可能な活力あるまちづくりを図る施策が課題である。
- ④駅周辺地区、山居倉庫周辺地区の魅力を高めるための施策が不十分であり、都市機能の魅力向上を図る施策が課題である。

将来ビジョン(中長期)

- ・「酒田市総合計画(2008～2017)」では、「心豊かに健やかで未来に向かうまちづくり[人]」、「誇りと信頼にあふれる協働のまちづくり[ふるさと]」、「創造が世界に広がる活力あるまちづくり[交流]」を基本理念に、「人いきいき まち快適 未来創造都市酒田」をめざすことを掲げている。中心市街地の空洞化は全国の地方都市共通の課題として捉え、中心市街地はもとより地域のまちづくりエリアにおいても、快適で住みよい都市環境、生活空間の整備をし、また、交流の舞台となる活力あるまちづくりを総合的に進めるため、ひと、もの、情報が緊密で魅力あるライフスタイルを享受することができる、コンパクトで交流の広がる推進するとしている。
- ・「酒田市都市計画マスタープラン」の全体構想では、中心市街地のまちづくりについて①暮らしと仕事が適度に調和した快適で暮らしやすい土地利用、②誰もが安心して生活できるゆとり空間の整備、③港、空港、高速道路を活用し、まちの賑わいを支える交流ネットワークの整備、④豊かな自然と港町としての歴史・文化が実感できる酒田らしい景観づくり、⑤豊富な緑と水に気軽にふれあえる潤いと安らぎの環境整備など具体的な方針を定めている。
- ・「酒田市中心市街地活性化基本計画」の基本方針として、酒田は古くから最上川の河口の商業港として栄えてきた湊まちであり、本市のアイデンティティである歴史、文化、景観及び食べ物など豊富な資源がある。このアイデンティティを活かし、中心市街地のにぎわいを取り戻すため、市民同士、あるいは市民と観光客との交流によるコミュニケーションとコミュニティを促進し、中心市街地の活性化を推進する。中心市街地には、湊まち文化を感じる歴史的建造物や街並みが多く残っており、街なか居住により地域資源を再発見するとともに、来街者のにぎわいと交流のあるまちづくりを進めるとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	目標年度	
				基準年度	目標年度	目標年度	
歩行者・自転車通行量(平日)	人/日	交通量調査(3か所)	中町モール改修事業やにぎわい交流施設整備事業(市庁舎併設)等の実施による中心商店街のにぎわい創出を図り、中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加を目指す。	2,718人	2,779人	平成26年度	平成31年度
商店街空き店舗数	件/年	主要商店街等(5か所)空き店舗数	各新規開業支援事業等を展開し、空き店舗数の減少を目指す。	99件	83件	平成26年度	平成31年度
観光施設入込数	人/年	主要観光施設(15か所)入込数	山居倉庫周辺整備事業や各施設間の回遊性を高める事業を展開し、観光施設入込数の増加を目指す。	1,571,285人	1,648,000人	平成25年度	平成31年度
公共・公益施設利用者数	人/日	主要交流施設(5か所)	中町にぎわいプラザ(仮称)整備事業や中町庁舎改修事業等の実施により街なかへの交流人口の増進を図り、主要交流施設の増加を目指す。	363人	953人	平成25年度	平成31年度

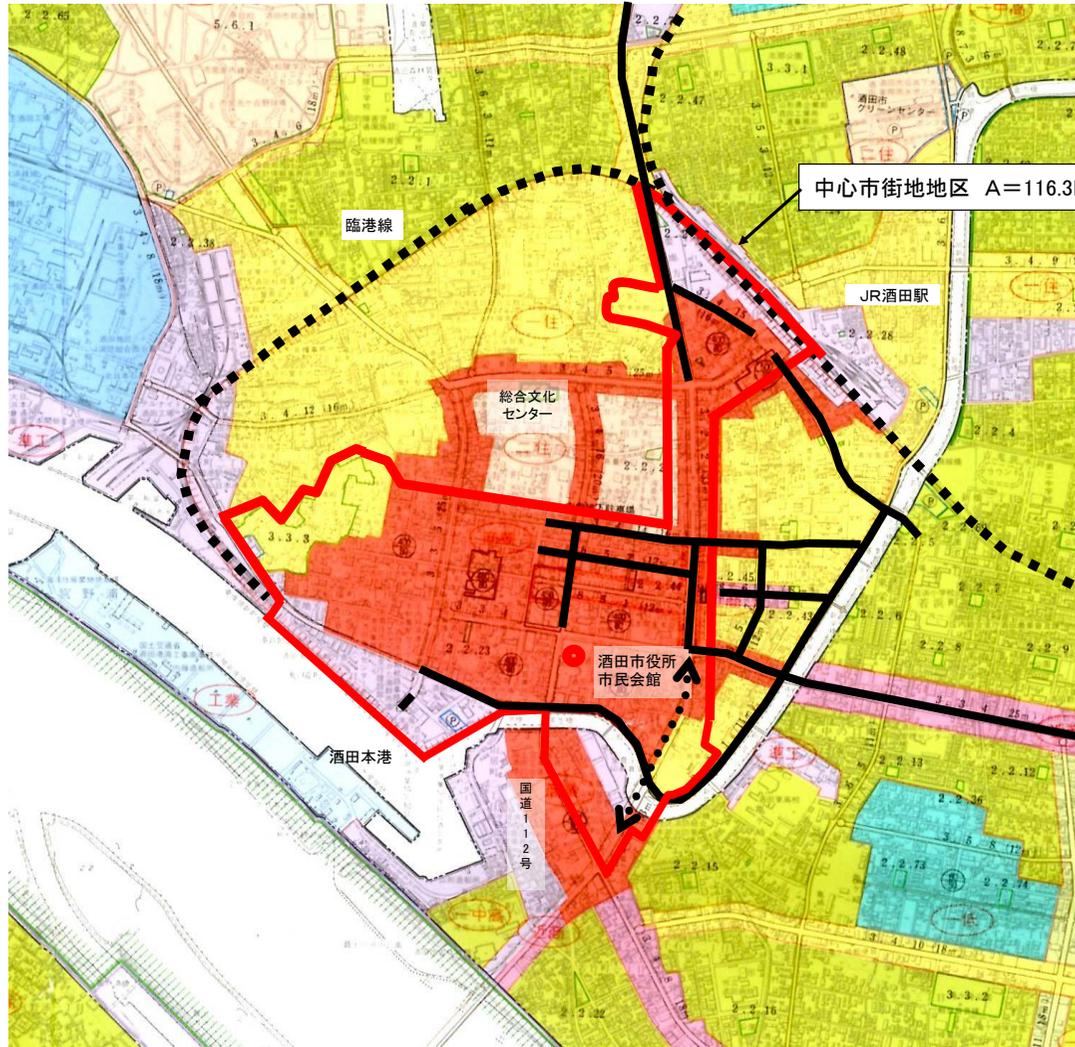
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 中心商店街のにぎわい創出拠点、環境整備を図る。 	中町モール改修事業(基幹事業/高質空間形成施設) 中町モール大屋根整備事業(提案事業/地域創造支援事業) 基本計画等作成事業(酒田市駅前地区)(関連事業)
<ul style="list-style-type: none"> 街なかの観光施設の魅力向上のための施設整備等を図る。 区域内の観光施設、拠点施設間の回遊性向上のための環境整備を図る。 	街なかサイン整備事業(基幹事業/生活基盤整備事業(情報板)) 山居倉庫ライトアップ事業(提案事業/地域創造支援事業) 都市計画道路豊里十里塚線街路事業(関連事業)
<ul style="list-style-type: none"> 市民が集う機会を創出する環境整備を図る。 	日和山公園環境整備事業(基幹事業/公園) 暮らし・にぎわい再生事業(酒田市中心市街地地区)(関連事業)
その他	

都市再生整備計画の区域

<p>湊酒田中心市街地地区(第2期)(山形県酒田市)</p>	<p>面積 116.3 ha</p>	<p>区域 中町一丁目、二丁目、三丁目、本町一丁目、二丁目、三丁目、山居町一丁目、日吉町二丁目、船場町一丁目、二丁目、幸町二丁目の全部と御成町、幸町一丁目、相生町一丁目、二丁目、一番町、上本町、中央東町、中央西町、寿町、日吉町一丁目、南新町一丁目、千石町一丁目の一部</p>
--------------------------------	------------------------	---

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



中心市街地地区 A=116.3ha